

OECD東南アジア地域プログラム（SEARP）閣僚会合
「共同コミュニケ：包摂的なASEAN」
（ポイント）

【冒頭】

- 我々は、SEARPの最初の数年における共同議長としての日本及びインドネシアの同プログラムへの積極的な関与及びリーダーシップに感謝。
- 我々は、SEARPを通じた東南アジアへの関与の戦略的重要性を確認し、日本及びインドネシアによる共同議長の下での具体的な進展を認識。

【連結性を通じた包摂性】

- 貿易・投資が経済成長、雇用創出、福祉、地域開発の促進の原動力であることを再確認し、貿易・投資の障壁・コストの削減や円滑化を通じ、域内及び他の地域との間において貿易・投資を更に推進していくことを奨励。
- アジアにおける膨大なインフラ投資の需給ギャップに留意しつつ、我々は、このギャップを解消するために民間資金の効果的な動員の必要性を認識。
- 我々は（インフラ投資の）「量」的側面のみに着目することは不十分であることを強調。

東南アジアの包摂的かつ持続可能な開発の実現のためには、インフラの開放性、透明性、経済性、被援助国の財政健全性の確保、安全性及び環境配慮といった、国際的に共有されたスタンダードや原則に則った質の高いインフラの整備が必要不可欠。

インフラ及び投資に関するOECDの既存の取組を活用し、また、この分野におけるOECDの将来的な作業に期待しつつ、SEARPは質の高いインフラ整備の強力な手段として引き続き機能。

【参加を通じた包摂性】

- 我々は、生涯にわたる職業訓練を含む質の高い教育・訓練へのアクセス拡大を促進するための政策の重要性を認識。
- 女性の経済的エンパワーメントは、参加を通じた包摂性を促進しつつ、経済成長を実現する強力な原動力。我々は、適切な場合にはSEARPの活動においてジェンダーの視点を主流化することを含め、この分野における更なる取組を奨励。
- 我々は、中小企業がグローバル化、開かれた市場及び技術進歩の恩恵を享受するための環境を整備するための政策の重要性を認識。

【今後に向けて】

- 我々は、ASEANの地域統合プロセスの促進、ASEAN加盟国の国内改革の優先課題や、ASEAN議長によって毎年設定される優先課題に対する支援、これらの諸国がOECDとの距離を縮める上で、SEARPが果たす重要な役割を再確認。
- 我々は、SEARPに対して、特に「連結性」及び「参加」に着目しつつ、包摂的で、強靱な、そして、人間中心かつ人間指向のASEAN共同体の構築を支援していくことを要請。
- 韓国及びタイを2018～2021年のSEARPの新共同議長として歓迎。

(了)